

一条恵観山荘は庭だけでも大満足

●湘南浦高会主催「鎌倉散策」に参加 その4

12月6日(土)の「湘南浦高会主催の「2025年紅葉

の鎌倉散策」の続きです。いよいよこの日最大の見どころ「一条恵観山荘」に向かいます。素敵な茶室があるようで茶室内部はYoutubeで拝見しました。素晴らしい建物と庭です。少しでもご紹介してまいりましょう。

◇ ◇

◆**一条恵観山荘 (いちじょうえかんさんそう)** : 国重要文化財。後陽成天皇 (在位 1586~1611 年) の第九皇子であり、摂政・関白を勤めた一条恵観によって正保年間 (1644~1647 年) に京都西鴨川の山里に、一条家の別邸の茶屋として建てられた。恵観の没後、一条家から分かれた醍醐家とその別邸を継承。昭和 34 年 (1959) に鎌倉に移築され保存・管理された。昭和 39 年 (1964) 国の重要文化財に指定。茅葺屋根の外観は田舎風なつくりで、雑木林に囲まれて室内にいても野趣を感じられるような自然の中で見つけた建材を多用している。随所に江戸時代の公家の好みも反映された雅な趣向と拘りこだわりが施されている。



中庭



一条恵観山荘(重要文化財)



茶室「時雨」の円窓

ここで、坂本様から庭園様式のお話がありました。「世界には 3 つの庭園様式があります。1 つ目がフランス式庭園で幾何学的な整形式庭園で噴水や彫刻などを配します。2 つ目がイギリス式庭園で自然風景を再現したような庭園です。そして 3 つ目が日本式庭園です。日本式庭園も時代によって、池を巡らせた寝殿造りの庭園、極楽浄土を模した浄土式庭園、枯山水などで自然を模した禅宗の庭園、寝殿造りから進化した書院庭園、室町時代後期から茶の湯など関係が深い露地、江戸時代になると桂離宮のような回遊式庭園が造られました。「桂離宮」は恵観の叔父の八条宮智仁親王が造営し、「修学院離宮」は恵観の兄の後水尾天皇による造営しました。」

◇ ◇

◆**青砥藤綱邸跡 (あおとふしづな)** : 鎌倉時代の武士で青砥藤綱の屋敷があったと言われる石碑があります。藤綱は公平な裁判を行ったこと (鎌倉時代の大岡越前守) やお金の話で語り継がれたお話があります。青砥藤綱がある夜出かけ、滑川を渡る時に銭十文を落としてしまいました。普通の人ならかすか十文ばかりとそのままだと置いておきましょう。しかし藤綱は松明を買ってこさせて、家来たちに川の中から探し出させたそうです。この時の松明代は五十文でした。人々はこれを聞いて「藤綱は十文の得をするために、五十文の損をしている」と笑いました。その時藤綱は「お前たちは世の中の損という事を考えたことがないのか。もし、十文を探せなかったら十文は永久に滑川の底に沈んでしまったであろう。たが私の買った松明の代金五十文は商人の手から手にわたり、亡くなる事はないだろう。」と語り皆は感心しました。 ◇ ◇ 12時15分を過ぎ、バスで鎌倉駅まで移動して昼食兼懇親会となりました。



本日、湘南浦高会の「鎌倉散策～一条恵観山荘編」の撮影を担当された金川幸紀様から当日の写真集をお送りいただきました。晩秋の鎌倉や参加者の様子が拝察できる一部を掲載させていただきます。

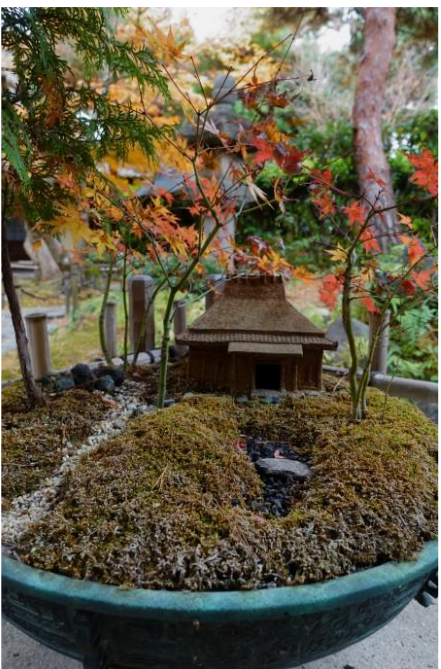
報國寺(竹の寺)



旧華頂宮邸



一条恵観山荘(庭園)



湘南浦高会幹事 金川幸紀氏

湘南浦高会の強みは、古都・鎌倉をエリアに含んでいるということもありますが、こうしたイベントを企画・実行いただける人財の有難さだと思います。来年以降も楽しませていただけることに期待します。